

国内マグネシウム 2013 年需要実績／2014 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	13/12%	2014 予測	14/13% 予測
ダイカスト	9,930	9,640	7,684	5,493	6,878	5,742	6,379	5,800	90.9%	6,000	103.4%
鋳物	95	109	92	120	76	92	55	70	127.3%	100	142.9%
射出成形	1,261	1,030	587	328	168	220	400	300	75.0%	300	100.0%
展伸材	1,091	1,116	905	342	1,165	1,104	584	760	130.1%	900	118.4%
その他合金							800	1,030	128.8%	1,200	116.5%
構造材小計	12,377	11,895	9,268	6,283	8,287	7,158	8,218	7,960	96.9%	8,500	106.8%
アルミ合金添加	18,694	20,237	20,124	17,552	20,185	19,616	19,485	18,800	96.5%	19,000	101.1%
鉄鋼脱硫	9,041	9,048	7,859	4,075	5,814	6,124	4,140	3,950	95.4%	4,000	101.3%
ノジュラー鋳鉄	2,548	2,526	2,352	2,238	2,358	2,306	2,327	2,340	100.6%	2,500	106.8%
チタン製錬	525	584	724	600	400	1,193	740	60	8.1%	200	333.3%
化学・触媒							1,860	1,800	96.8%	1,800	100.0%
添加材小計	30,808	32,395	31,059	24,465	28,757	29,239	28,552	26,950	94.4%	27,500	102.0%
防食その他	2,823	2,286	1,795	1,241	897	1,340	606	620	102.3%	700	112.9%
内需小計	46,008	46,576	42,122	31,989	37,941	37,737	37,376	35,530	95.1%	36,700	103.3%
輸出	1,011	859	891	567	1,956	2,583	642	330	51.4%	300	90.9%
総需要	47,019	47,435	43,013	32,556	39,897	40,320	38,018	35,860	94.3%	37,000	103.2%

※この数値は、マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。再生材は含んでいません。

(日本マグネシウム協会調べ)

<2013 年の需要実績>

- ①2013 年のマグネシウム需要量は、構造材向け及び添加材向けの需要が共に減少と厳しい推移となり、総需要量は前年比 5.7%の減少となる 35,860 トンとなった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要は、生産拠点の海外移転、新規アプリケーションの不足等により、ダイカストが前年比 9.1%減の 5,800 トン、射出成形が同 25.0%減の 300 トンと鋳造関連が減少し、全体では同比 3.1%減の 7,960 トンとなった。しかしながら、展伸材向けの需要は、モバイル関連や電池材料に板材が適用され始めたこと等の理由から、同 30.1%の増となる 760 トンと成長を見せている。また、その他合金が同 28.8%増の 1,030 トンとなったが、この増加については、財務省貿易統計で「製品」としての輸入されているマグネシウムの量が 800 トン近くあるものの、用途の判別が難しいために「その他合金」の需要として算出したことによる。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けの需要は、チタン製錬向けが前年比 91.9%減と大きく減少したのをはじめ、アルミ添加向け、鉄鋼脱硫向け、化学・触媒向けがそれぞれ約 4%程度の減少となり、全体では同比 5.6%減の 26,950 トンとなった。
- ④輸出は、年初からの円安傾向の影響もあり前年比 48.6%減となる 330 トンとなった。

<2014 年の需要予測>

- ①構造材向けの需要は、展伸材分野の成長、マグネシウム製品の安定した輸入が引き続くものと予測し、展伸材、その他合金の需要量はそれぞれ前年比 18.4%増の 900 トン、同 16.5%増の 1,200 トンとした。鋳造分野はまだ厳しい状況が続くと考えられるが、自動車等の軽量化対策に関する研究開発が進むことへの期待から、ダイカストは同 3.4%の微増で 6,000 トン、鋳物は同 42.9%増の 100 トンと予測し、構造材全体では同 6.5%増の 8,500 トンと予測した。
- ②添加材向け、防食その他向けの需要も厳しい状況は続くと考えられるが、震災地域の建築分野の復興が本格化することも期待されることから、添加材全体は前年比 2.0%の微増の 27,500 トン、防食その他向けは同 12.9%増の 700 トンと予測した。
- ③今後も円安傾向が続くと見られ、輸出は前年比 9.1%減の 300 トンと予測した。
- ④2014 年の総需要量は、展伸材の成長等により、前年比 3.2%の若干増となる 37,000 トンと予測した。